

ホテル龍名館東京

東京の表玄関・八重洲に誕生した 伝統と最先端が融合する「街の旅館」

東京の表玄関である中央区八重洲に昨年六月、新しい“和のホテル”が誕生しました。

呉服橋交差点近くに建つ「ホテル龍名館東京」は、創立百十周年を迎えた神田の老舗旅館、龍名館が、その記念事業の一環として一九六三年開業の「ホテル八重洲龍名館」を全面改装の上オープンした宿泊主体型ホテルです。

同ホテルが入居する八重洲龍名館ビルは地下一階地上十五階建ての複合ビル。二階から七階までが賃貸オフィスで、八階以上がホテル龍名館東京となっています。

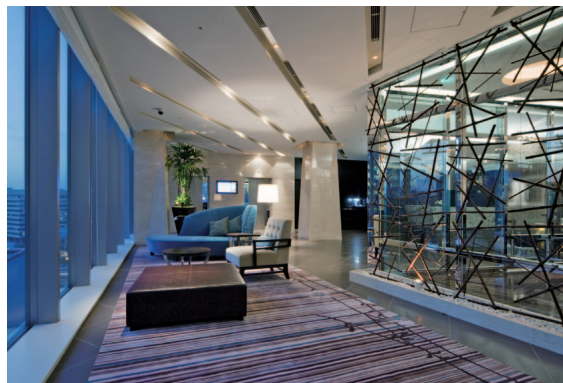
通常ホテルの場合、低層階に置くことが多いロビーフロアを最上階の十五階に設置。さらに全面ガラス張りにすることで、都会の喧騒から隔離しつつ丸ノ内や銀座の絶景眺望を堪能できる贅沢な空間を実現しています。

客室数は百三十五室。ビジネスユースに最適な十七・五平方メートルのスタンダードシングルルーム（六十六室）を中心に、

和式のバスルームを備えた三十一・四平方メートルのダブルルーム（七室）や、畳部屋を含む四十四・二平方メートルのジャパニーズルーム（四室）など、客室は用途や気分に合わせて選べる豊富なバリエーションを用意。シングルルームの全室に横幅百四十センチの大型ベッドを導入するなど、ゆとりのある客室設計が大きな特徴です。

百年以上の歴史を持つ龍名館の系譜を受け継ぐ施設ということで、ホテル龍名館東京はリニューアルにあたって「伝統と最先端の融合」というコンセプトが掲げられました。

たとえばインテリアのデザインは、世界中のラグジュアリーホテルを手がけるハーシユベドナー・アソシエイツ社のジョー・G・リベラ氏が担当。旅館時代に使用されていた欄間を客室のアートワークに取り入れるなど、ノスタルジーを喚起する



最上階からの眺望が楽しめる、広々としたロビー



日本の伝統色・江戸紫色を基調に、さまざまなタイプのゲストルーム



ホテル龍名館東京外観



乗り込み口スペースのレイアウト



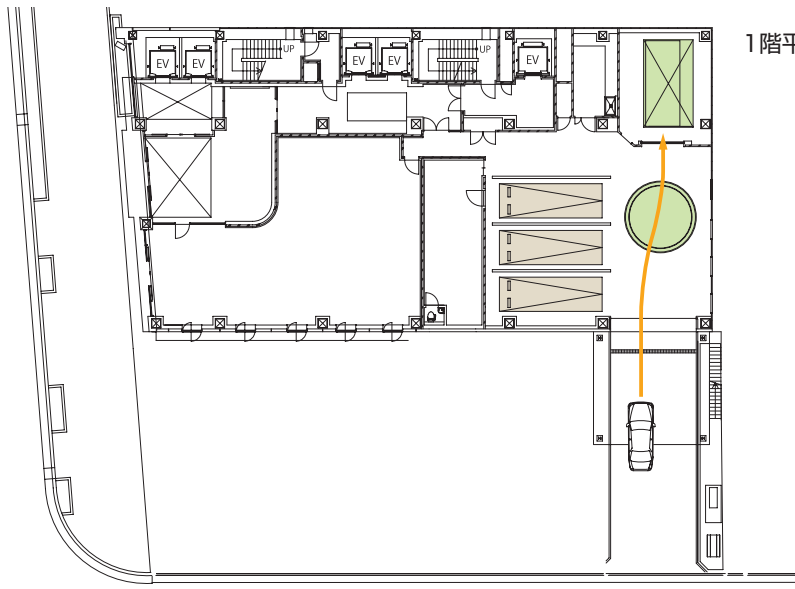
段差のないフラットトレイを採用



正面からみたターンテーブルと入庫口



ホテル駐車場入り口付近



1階平面図

【建築概要・規模】

【建築主】 龍名館ビル開発(株)
【敷地面積】 943.69㎡
【建築面積】 764.34㎡
【延床面積】 11,169.26㎡
【構造規模】 地上15階、地下1階
【設計・監理・監理】 大林組

【駐車設備概要】

【機種】
LEVELパーク《水平循環方式》
【型式】
NLPLSR2E-16B1FD-B
【収容台数】 34台
(普通車17台／ハイルーフ車17台)

限られた空間を最大活用できる 水平循環方式LEVELパーク

八重洲龍名館ビルのフルリニューアルに際し、新たなパーキングシステムとして選ばれたのが日精の水平循環方式LEVELパークです。地下レイアウトにフレキシブルに対応するため、限られた空間を最大限有効に活用できること、そしてスピーディーな車の入出庫が可能なのが、採用の大きな決め手でした。

伝統の中で培われてきたホテル龍名館東京のおもてなし。日精のパーキングシステムは、確かな技術力と安心のメンテナンス体制により、そのさらなる質の向上をサポートして参ります。